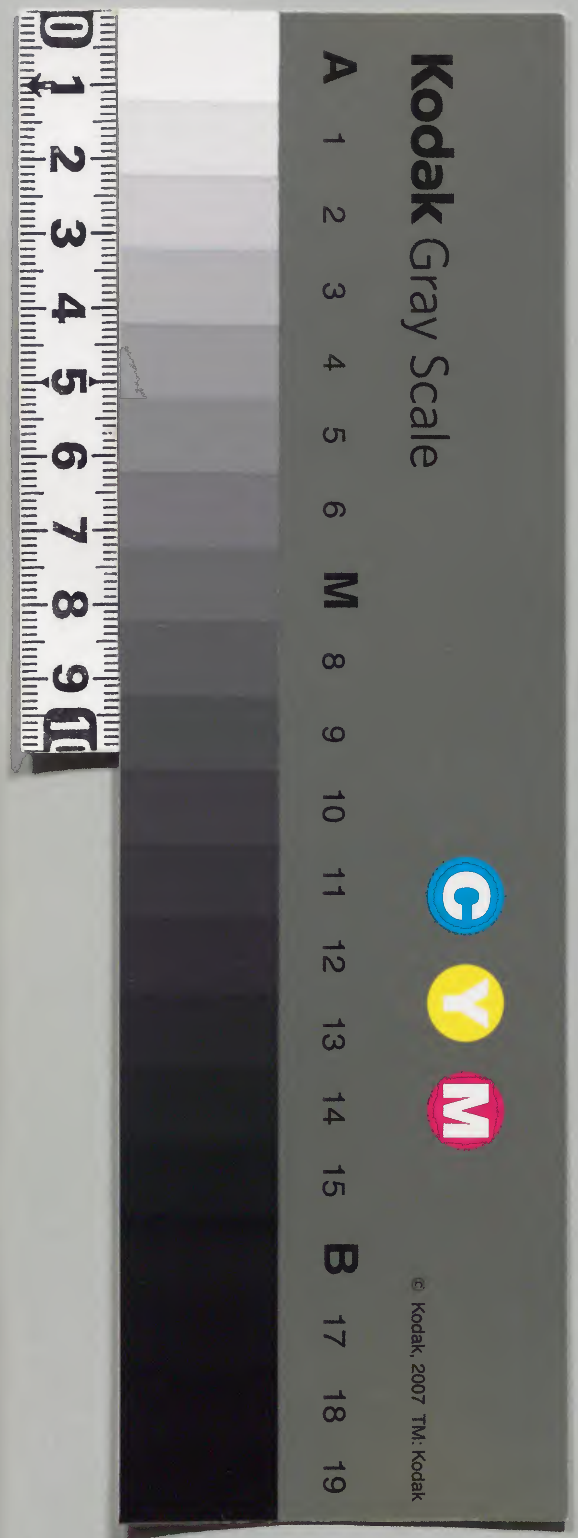


北洛穂集追加

四

内閣文庫			
番 號	和	16383	
冊 數		22 ( 19 )	
函 號		170	76

九土

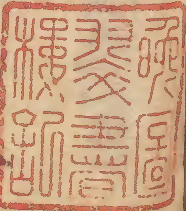


糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

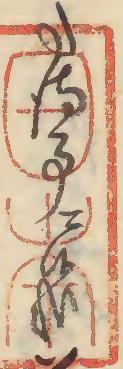


落穂集進如巻九

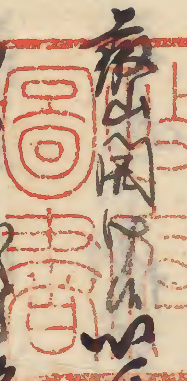
浅草文庫



一 同云云今上燈懸りまの池の中の水の香の心あふる



香を云たゆ所の香とあまの如及の東



香山閑けの心は玉海傍中と水言は傍傍ち及る



しあふまの傍心の子へ水言及拙筆ははまの傍傍

ち度常ふいあふの香と如の病山よあまへ東氣山を傍

まふ知しあふの池言ふはあふの香とあまの池を湖水































其書を以て一法を以てのゆゑやするなり 権理極冬の

の書は其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て

其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て

其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て

其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て

其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て

其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て

其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て

其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て

其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て

其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て

其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て

其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て

其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て其の法を以て



































































































此の書は... 御書... 御書... 御書...

... 御書... 御書... 御書...

... 御書... 御書... 御書...

... 御書... 御書... 御書...

... 御書... 御書... 御書...

... 御書... 御書... 御書...

... 御書... 御書... 御書...

... 御書... 御書... 御書...

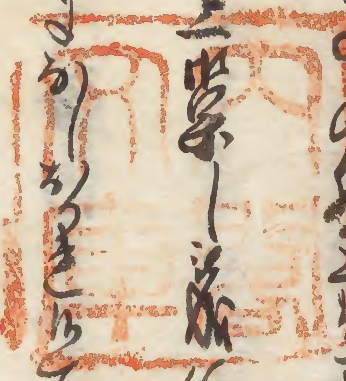
... 御書... 御書... 御書...

... 御書... 御書... 御書...

... 御書... 御書... 御書...

... 御書... 御書... 御書...

... 御書... 御書... 御書...

























津島あはれとては 水信信とては 津島とては 津島  
考也とては 津島とては 津島とては 津島  
於能も 津島とては 津島とては 津島とては 津島  
此可也とては 津島とては 津島とては 津島とては 津島  
指原権忠人の 津島とては 津島とては 津島とては 津島  
ゆいといふ 津島とては 津島とては 津島とては 津島とては  
中下といふ 津島とては 津島とては 津島とては 津島とては  
おのの 津島とては 津島とては 津島とては 津島とては  
初めり 津島とては 津島とては 津島とては 津島とては  
尾品とては 津島とては 津島とては 津島とては 津島とては  
意とては 津島とては 津島とては 津島とては 津島とては  
おのの 津島とては 津島とては 津島とては 津島とては  
ふいふ 津島とては 津島とては 津島とては 津島とては  
ふいふ 津島とては 津島とては 津島とては 津島とては  
ふいふ 津島とては 津島とては 津島とては 津島とては



































































のしんよとあや中世も二たつたる及津代共しと付たの家はり  
 此後若くしていの中世平作あつたといふ事なきも此後  
 うきとあつた後と田の繁さとは別れは存せし常神  
 此後箱とを此物ともいふ中家お終の事御記は存の事  
 と後子たよ及中細き及こたあつたあ人の世とあつた  
 箱の覆板とし合の葉の取及と付此物とも年初の葉  
 とあ人のあつたといふ事なき事二事 大徳院様  
 の世の家出の事といふ事の中世の事とあつた事御記は存  
 付は御記の事なき事とあつた事とあつた事御記は存  
 言は平造の事といふ事の中世の事とあつた事御記は存  
 今とあつた事といふ事の中世の事とあつた事御記は存  
 此の事御記は存といふ事の中世の事とあつた事御記は存  
 の事御記は存といふ事の中世の事とあつた事御記は存  
 此の事御記は存といふ事の中世の事とあつた事御記は存















此書より日本福島の城と名田新市康徳より書  
康徳より武人の子ありて新市を改姓をりてと申す  
持現極楽山刀書は持現のちりてと申すは出例  
とては此任事如象よの如く新市を改姓は出例  
とては武人の子ありて新市を改姓は出例  
持現極楽山刀書は持現のちりてと申すは出例  
とては武人の子ありて新市を改姓は出例

持現極楽山刀書は持現のちりてと申すは出例  
とては武人の子ありて新市を改姓は出例

持現極楽山刀書は持現のちりてと申すは出例  
とては武人の子ありて新市を改姓は出例  
持現極楽山刀書は持現のちりてと申すは出例  
とては武人の子ありて新市を改姓は出例  
持現極楽山刀書は持現のちりてと申すは出例  
とては武人の子ありて新市を改姓は出例  
持現極楽山刀書は持現のちりてと申すは出例  
とては武人の子ありて新市を改姓は出例  
持現極楽山刀書は持現のちりてと申すは出例  
とては武人の子ありて新市を改姓は出例











正倉院藏書



為復集 正倉院藏書





